

## <国語>

### 経験年数に関わらず、誰もが再現可能で、教育効果の高い指導方法を求めて

～ロイロノートを活用した、誰でも・誰にでもできる指導と評価の方法～

岐阜市立藍川中学校 教諭 伊藤 雄樹

#### 概要

全国学力学習状況調査から、「国語はできるが、好きではない」という課題があることが分かった。また、好きではない理由は「書くのが面倒」「答えが曖昧」「何ができるようになったかが不明瞭」であると分かった。さらに、不登校等児童生徒は過去最多となり、教室外の生徒への学びの保障も求められている。この生徒の実態に加え、ワイングラス型の職員構成といわれる現代であるからこそ、「どの教員が担当しても、教室内外の誰にでも、ある一定水準以上の教育サービスを提供できる仕組みづくり」が急務である。そしてそれらは、「ロイロノート」があれば可能であると考え。例えば、「資料箱」を用いれば、得意を伸ばす・苦手を克服する指導の個別化が可能である。また、「生徒間通信」を使えば、「学びを調整する力」の可視化が可能である。さらに、オンラインを活用したノートであれば、教室内外ほぼ同じ指導と評価も可能である。本論文は、教員誰もが再現でき、教室内外の誰にでも効果的な指導と評価ができる方法を求めたものである。

#### I 主題設定の理由

##### (1) 生徒の実態

令和5年度の全国学力学習状況調査について岐阜県教育委員会が発表した情報（論文最後に示した「参考文献等」⑥⑧に示した資料）と、本校の同調査結果をまとめたものが図表1である。

項目	全国	県	本校
①「国語」の平均正答率	69.8	71	75
②「国語の勉強は好きですか」の質問に「当てはまる」と回答した割合	23.6	20.3	5.1

図表1：令和5年度の全国学力学習状況調査の結果

図表1内の①②のことから、「国語はできるが、国語は好きではない」と感じている生徒が多いということがいえる。そこで本校の生徒1・3年生に「なぜ国語が好きではないか」という追加質問を行った。結果は以下の通りである。

- (1) 作文を書くのが面倒臭く、楽しくないから
- (2) 国語は答えが曖昧で分かりにくいから
- (3) 日本語は「読める」し「書ける」から困らないため、勉強する意義を感じにくく、授業で何ができるようになったかが不明瞭だから

このことから、「国語の授業は曖昧で、新たな学びを感じていない」「学びは感じていても力がついたという実感がない」といえる。

その中で、特に「書く」ことの領域の学習に抵抗があるということが分かる。

##### (2) 不登校等児童生徒の増加と教育機会の確保

文部科学省が発表した「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」によると、「小・中学校における不登校児童生徒数は299048人(前年度244940人)であり、前年度から54108人(22.1%)増加し、過去最多となった」と述べられている。

加えて、文部科学省は「不登校児童生徒への支援の在り方について(通知)」で、「個々の状況に応じて、(中略)ICTを活用した学習支援など多様な教育機会を確保すること」を求めている。

つまり、学校に来ている生徒はもちろん、不登校生徒にも、誰にでもできる指導と評価のあり方が求められていると考えられる。

##### (3) 教員を取り巻く環境

公立中学校の教員の年齢構成について、文部科学省発表の「令和4年度学校教員統計調査(中間報告)」から以下のことが読み取れる。

- (I) 経験年数が少ない30歳未満の教員の比率が、H25は14%だったのが、R4には17.2%となり、3.2%増加している。
- (II) 教科担任をもつ機会が多い、教諭職の中では経験が豊富だといえる40歳台の教員の比率が、H25は37%だったのが、R4には21%となり、16%減少している。

この現象は、本校にも共通しており、自分が所属する国語科は、20代教職3年目の教諭1名、

60代のハートフルティーチャー1名と、44歳の自分となり、経験年数等もそれぞれである。

そのため、経験年数や勤務形態が異なっている、どの先生でも再現可能な、効率的で、効果的な指導方法が求められていると考えている。

## II 研究仮説と研究内容

「生徒の実態」「不登校生徒の増加と教育機会の確保」「教員を取り巻く環境」に加え、特に「書くこと」の学習への抵抗感が強い生徒が多いことをふまえ、研究仮説は以下のように設定した。

### 研究仮説

#### 「国語はできるが好きではない生徒に対して」

- ① 「書きたい」「書かねばならない」と書く魅力や必然を感じる言語活動を仕組み
- ② 教え込みではなく、書き方を発見していくような授業展開をし
- ③ 書く時に困った時に、「何を書けばよいか」「どう書くとよいか」という苦手を克服する手立てと同時に、作文が得意な生徒の力をさらに伸ばす手立てを講じ
- ④ 授業で学習したことを使って書くと、確かに書けるようになったと実感をもつことができる場の位置付けを行い

#### 打合せ時間が限定されたり・経験年数・勤務形態が異なったりする教員に対して

- ⑤ 30分程度の時間で指導事項や授業の流れが共有できる仕組みを作る

上記の①～⑤のことができれば

生徒にとって教育効果が高く・教師にとって再現性の高い指導法といえるだろう

### 研究内容

- ① 「書きたい」「書かねばならない」という書く魅力・必然性を感じる言語活動の工夫
- ② 書き方を発見する学習展開の工夫
- ③ 書くことに困り感をもつ生徒と、得意な生徒の両者に学びを保障する手立ての工夫
- ④ 見えにくい国語の学びを可視化し、学びを実感することができる評価の工夫
- ⑤ 誰にでも時差なく授業に参加できる指導方法を教員誰もが簡単に指導方法を共有できる仕組みづくり

## III 実践内容①

「助言を自分の文章に生かそう

作品の書評を書く(1年生)」の実践より

### 研究内容①

「書きたい」「書かねばならない」という書く魅力・必然性を感じる言語活動の工夫

「生徒の実態」で述べたように、生徒は国語が好きではない理由を、3つ挙げている。

その中で、この研究内容は、「(1)作文を書くのが面倒臭く、楽しくないから」と感じる生徒の意識にメスを入れるものである。

作文を書くことに抵抗感がある生徒に対して、「教科書に書いてあるから、作文を書くよ」と指導しても、意欲は減退すると考える。

逆に言えば、「書きたい」「書かねばならない」と、書くことに対して魅力や必然性を感じることができる場面状況を生み出すことができればよいのではないかと考えた。

そこで、写真1のように図書館司書と依頼ビデオを作成した。

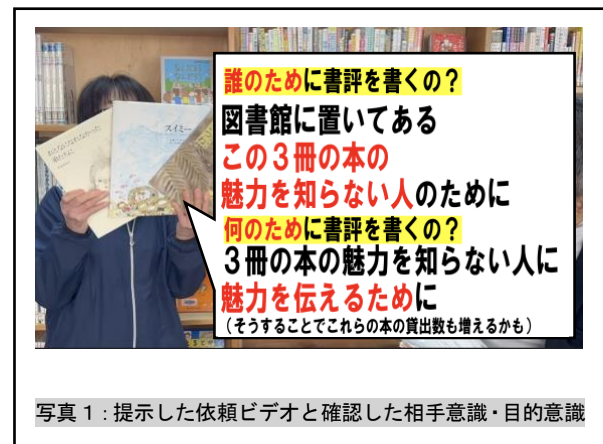


写真1：提示した依頼ビデオと確認した相手意識・目的意識

依頼ビデオの内容は、「魅力ある本がたくさんあるが、ここ数年借りられていない。だからその本魅力を伝えてほしい。」というものである。

自分が知っている身近な人の困り感を少しでも解決したいという生徒の願いを生み出し、「書きたい」「書かねばならない」という書くことに対する魅力や必然性を生み出そうとした。

### 研究内容②

#### 書き方を発見する学習展開の工夫

この研究内容は、「なぜ国語が好きではないか」の理由である3つの思いの中の、「(2)国語は答えが曖昧で分かりにくいから」にメスを入れるものである。

研究内容①の手立てにより、「書きたい」「書かねばならない」という思いになっても、「具体的にどう書くとよいか」が曖昧で困る」生徒がいると想定した。

また、その生徒に、「教科書に例文が載っているから、それを見て書きましょう」と書き方を押し付けるような学習活動では、せっかく高めた学習意欲が減退すると考えた。

そこで、教師が図表2の2種類の書評の例文を提示し、比較する活動を取り入れた。





### 様相③

「書き上げた書評をどう加筆・修正すると、よ  
り本の魅力が伝わる文章になるか」が分からな  
い生徒への手立て（手立てC）

(ア) ロイロノート内の「資料箱」に、以下のよう  
な視点を示したものを保管する。

- (1) 「リズム」など1つの観点で書かれて  
いるものを、「繰り返しの構成」の面  
でも分析し、観点を複数にするとよい
- (2) 「リズム」という同じ観点でも、単数  
でなく、複数の箇所からその根拠を書  
くとよい

(イ) 書き終わった生徒は、「資料箱」内(ア)の資  
料を取り出し、自分の文章を見直して、加  
筆・修正するように指示をする。

このようにして、指導の個別化を行い、どの子  
にも学びを保証できるようにした。

### 研究内容④

見えにくい国語の学びを可視化し、学びを実感  
することができる評価の工夫

この研究内容は、「なぜ国語が好きではないか」  
の理由である3つの中の、「(3)日本語は『読める』  
し『書ける』から困らないため、勉強する意義を  
感じにくく、授業で何ができるようになったかが  
不明瞭だから」にメスを入れるものである。

本教材は、仲間のアドバイスから、自分の文章  
の改善点を見だし、表記や語句の用法、叙述の  
仕方などを確かめて、文章を整えることを主なね  
らいとしている。

しかしながら、以下のようなことが見えにくい  
国語の学びとして考えられる。

### 見えにくい国語の学び

- ① 誰が誰にどんなアドバイスをしたのか？
- ② アドバイスを受けた生徒が、どのように学習を  
調整しようとしたのか？

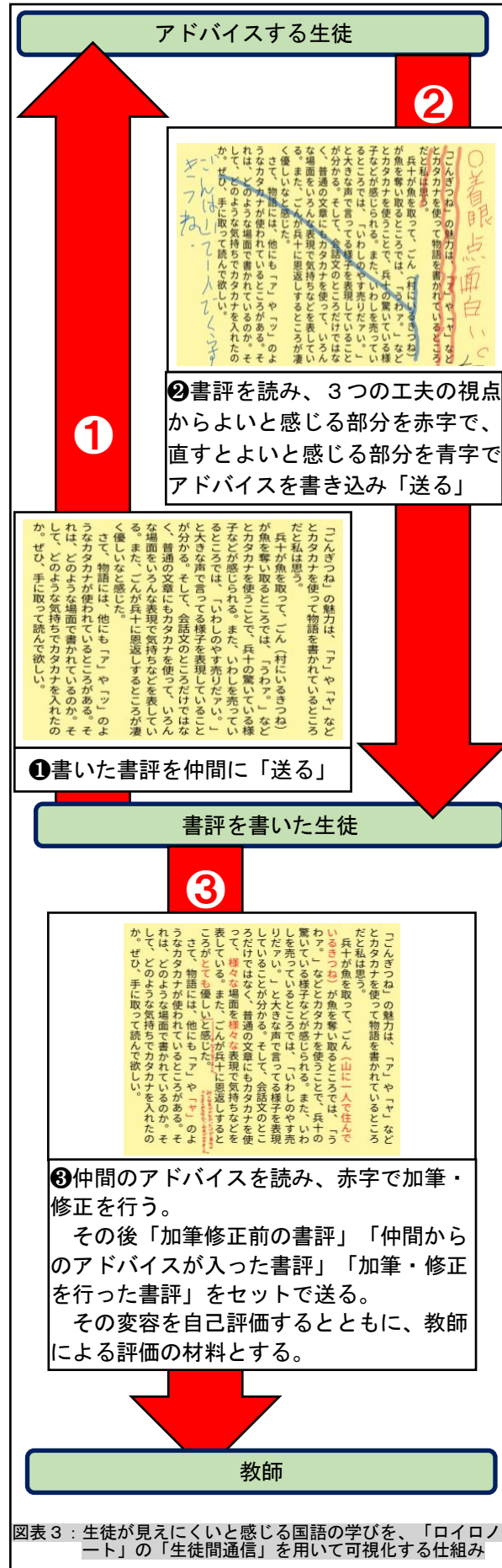
そのため、誰のどのようなアドバイスをもとに  
して、どのような意図をもって文章を整えたのか  
を、「可視化」するために、「ロイロノート」内  
の「生徒間通信」を用いて、下記の評価規準と評  
価方法で、図表3のように実践した。

### 評価規準

- ① 図表3に示した3つの工夫の側面や、表記の側  
面で、適切なアドバイスを送っている。
- ② 受けたアドバイスをもとに、自分の学びを調整  
し、書いた書評に加筆・修正をしている。

### 評価方法

アプリで提出した（書評を書いた）ノート



### 研究内容⑤

誰にでも時差なく授業に参加できる指導方法を  
教員誰もが簡単に指導方法を共有できも  
できる仕組みづくり

#### (1) ロイロノートの「資料箱」や「他の先生の授業」を活用した仕組みづくり

1 ページ目に述べたように、現在は、ワイングラス型と比喻される年齢構成であり、勤務形態が異なる場合もある。

それでも、同学年を指導するにあたって、指導事項や指導方法を揃えることが、「あの先生は」といった不信感を生むことを減らし、より教育効果の高い指導を行うことにつながると考える。

この現状を受けて、活用したのは、「ロイロノート」の「資料箱」である。

「資料箱」の「学内」「先生のみ」の中に、単元ごとに使用する配布資料・提示動画・黒板の写真等を入れておき、使用する時に、教科担任が「使う」を押して、共有できるようにした。

また、「他の先生の授業」から互いの授業の「提出箱」を確認しあい、生徒の様相を共有できるようにした。

こうすることで、勤務形態が異なり、対面で会議をもつことが難しくとも、自分のタイミングで教材等を確認し、教員誰もが簡単に指導方法を共有できる仕組みづくりを行なった。

#### (2) 3年間で系統立てた指導

##### ◇振り返りの話型・国語ノートの全校統一

##### ◇二次元コードノートやロイロノートの活用

年度が変わり、教科担任が変わるたびに、ノートの使い方や、振り返りの記述の仕方が変わると、生徒にとっては、負担が大きく、学びがつながりにくいと考える。

そこで、年度はじめに国語科3名で、「何が」「どのようにしてできるようになったのか」を見届けるために、単位時間の最後に記述する振り返りの話型を決めた。その話型は以下のようなものである。

はじめは、〇〇とっていました。  
◇◇さんの意見を聞いて、□□ということが分かりました。(やっぱり□□だということを確認しました。)

次は、◆◆を勉強するので、今日学んだ■ ■を活かして●●できるようにしたいです。

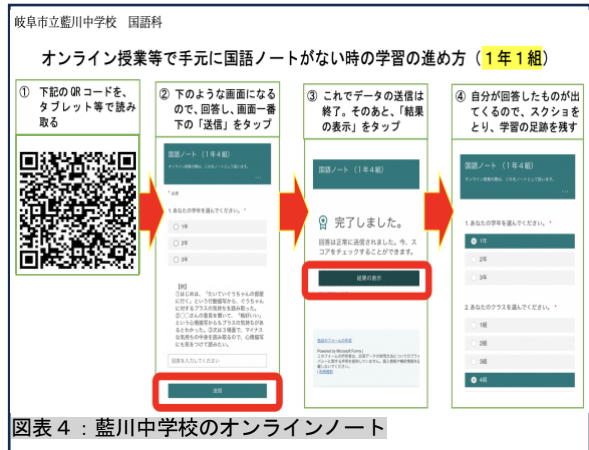
※□で囲まれた3つの言葉を用いて、3段落構成で書く。

※1年生は100字程度、2年生は150字程度、3年生は200字程度で記述する。

このようにして、3年間で振り返りの記述の仕方を統一し、学年間で学びがつながりやすくした。

また、「不登校児童生徒への支援の在り方について(通知)」で文部科学省は、「個々の状況に応じて、(中略)ICTを活用した学習支援など多様な教育機会を確保すること」を求めている。

不登校生徒のみならず、感染症罹患などで学校に来たくても来ることができない生徒の教育機会を確保することができるように、図表4に示した、二次元コードを用いてオンラインで学習できる手立てを国語科は全校的に行っている。



図表4：藍川中学校のオンラインノート

教材によっては、ロイロノートで記入した方が書きやすい場合もあるので、ロイロノートの「テキスト」機能と上記の二次元コードとを本人が選択して活用している。

このように、経験年数・勤務形態に関係なく、教員誰でも再現可能で、教室にいる生徒・教室にいない生徒の誰にでも、教室内の授業と、ほぼ変わらない指導と評価ができるようにした。

## IV 成果と課題

### 成果①「生徒の意識の変容」

「助言を自分の文章に生かそう 作品の書評を書く」で、Aさんは、仲間のアドバイスを受けて、写真2のように、生徒は、加筆・修正をした。

「こんぎつね」の魅力は、「ア」や「ヤ」などとカタカナを使って物語を書かれているところだと私は思う。

兵十が魚を取って、ごん(山)に一人で住んでいる(きつね)が魚を奪い取ることで、「うわア。」などカタカナを使うことで、兵十の驚いている様子などが感じられる。また、いわしを売っているところでは、「いわしのやす売りだアい。」と大きな声で言っている様子を表現していることが分かる。そして、会話文のところだけではなく、普通の文章にもカタカナを使って、様々な場面を様々な表現で気持ちなどを表している。また、ごんが兵十に恩返しするところがとても優しいと感じた。

さて、物語には、他にも「ア」や「ヤ」のようなカタカナが使われているところがある。それは、どのような場面で書かれているのか。そして、どのような気持ちでカタカナを入れたのか。ぜひ、手に取って読んで欲しい。

写真2：アドバイスを受けて加筆・修正した書評

黒字の部分は、Aさんが、最初に書いた書評であり、赤字の部分が、仲間のアドバイスを受けて加筆・修正をした部分である。

このように、Aさんが、どのように、学びを調整したのかを可視化することに成功した。

また、Aさんは、この単元のまとめを以下のように書いていた。

今まで、作文というと、「なんで書かないといけないの?」と思っていました。

この単元では、自分が書いた書評に、仲間からコメントをもらって、習ったことが「できている」と言ってもらえると、自信がもててうれしかったです。また、アドバイスを受けたものを入れて書くと、確かに最初の書評より、良くなりました。また仲間の考え方を読んだ時に、〇〇さんが、「会話文にカタカナを使うことで、驚いている様子をより豊かに表現しているということを書いていて、自分が気付かない本の魅力があって、なるほどと思いました。

次の文化委員の「おすすめの本紹介」では、この単元で習ったことを使って書きたいです。

このように、この単元で学んだことは何かということを確認にし、それを生かして書くと、確かによりよい文章になったという実感をもつことができた生徒がいたことが、成果であると考えます。

## 成果②「国語科の教員のコメント」

6月に全校研究授業を行いました。特に有効だと思ったのは、複数の例文の読み比べです。昨年度も同じ単元をやりましたが、例文を比較し、書き方を見つけるとい指導方法だと、生徒が主体的に学習に取り組めますし、よい例文がそのままお手本になるため、非常に有効な指導方法だと感じました。

経験年数 3年 20代男性教諭

作文の授業で動画を提示すると、明らかに生徒の意欲は高まります。また、作文をコピー・ペーストし、直した部分だけを色を変える方法は、生徒も書き直す負担がなく、教師も評価がしやすいです。

また、教材も共有されているので、テストの時にも「教えていない」というズレがないです。

60代女性ハートフルティーチャー

授業資料をロイロノートの資料箱で共有したり、振り返りの仕方を統一したりしたことで、教員自身が手応えをつかめたことが成果である。

## 課題①「学びを調整する力のA規準の明確化」

どのように学習を調整しようとしたのかを可視化する点で、一定の成果はあったと考えられる。

ただし、「どのような状況をA（十分満足できる状況）だといえるのか」が不明確だった。

例えば、右記のような様相が考えられる。

### A（十分満足できる状況）と考えられる様相

- ① アドバイスを取り入れて修正すると、なぜ本の魅力を伝えることになるのか、修正に至った意図を適切に説明できる。
- ② 受けたアドバイスを取り入れ、修正することが本の魅力を伝えることにつながりにくいと、あえて修正しなかった意図を適切に説明できる。

今後はさらにAの様相の可視化を目指したい。

### 参考文献等

- ① 「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」（平成29年7月）文部科学省
- ② 「学習評価のあり方ハンドブック」（令和元年6月）文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター
- ③ 「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」（令和元年10月25日）文部科学省
- ④ 「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料 中学校 国語」（令和2年3月）文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター
- ⑤ 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、共同的な学びの実現～（答申）」（令和3年1月26日）中央教育審議会
- ⑥ 「令和5年度全国学力学習状況調査の結果について」（令和5年7月27日岐阜県発表資料）岐阜県教育委員会 義務教育課 小中教科教育係
- ⑦ 「令和4年度学校教員統計調査（中間報告）」（令和5年7月28日）文部科学省
- ⑧ 「令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた指導改善資料2023」（2023年9月22日更新）岐阜県教育委員会
- ⑨ 「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」（令和5年10月4日）文部科学省